

コリント人への手紙一

1 Corinthians

新約聖書

第1章

- 1 神のみこころによりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、
- 2 コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、キリスト・イエスにあって聖なる者とされ、聖徒として召された方々へ。主はそのすべての人の主であり、私たちの主です。
- 3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
- 4 私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。
- 5 あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。
- 6 キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。
- 7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっていきます。
- 8 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。
- 9 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。
- 10 さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。
- 11 私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。
- 12 あなたがたはそれぞれ、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケファに」「私はキリストに」と言っているとのことです。
- 13 キリストが分割されたのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。
- 14 私は神に感謝しています。私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けませんでした。
- 15 ですから、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたとは、だれも言えないのです。
- 16 もっとも、ステファナの家の者たちにもバプテスマを授けましたが、そのほかにはだれにも授けた覚えはありません。
- 17 キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに宣べ伝えるためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。
- 18 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。
- 19 「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。
- 20 知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。
- 21 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。

- 22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。
- 23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、
- 24 ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。
- 25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。
- 26 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。
- 27 しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。
- 28 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。
- 29 肉なる者がだれも神の御前で誇ることをしないようにするためです。
- 30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。
- 31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

第2章

- 1 兄弟たち。私があなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。
- 2 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。
- 3 あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。
- 4 そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。
- 5 それは、あなたがたの信仰が、人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためだったのです。
- 6 しかし私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でも、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。
- 7 私たちは、奥義のうちにある、隠された神の知恵を語るのであって、その知恵は、神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から定めておられたものです。
- 8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。
- 9 しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。
- 10 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。

- 11 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほか、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。
- 12 しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのです。
- 13 それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。
- 14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。
- 15 御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません。
- 16 「だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。」しかし、私たちはキリストの心を持っています。

第3章

- 1 兄弟たち。私はあなたがたに、御霊に属する人に対するようには語るができずに、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように語りました。
- 2 私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。
- 3 あなたがたは、まだ肉の人だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるのですから、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいることにならないでしょうか。
- 4 ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたは、ただの人ではありませんか。
- 5 アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。
- 6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。
- 7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。
- 8 植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。
- 9 私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。
- 10 私は、自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように土台を据えました。ほかの人がその上に家を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければなりません。
- 11 だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。
- 12 だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てる、
- 13 それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。
- 14 だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

- 15 だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。
- 16 あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。
- 17 もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。
- 18 だれも自分を欺いてはいけません。あなたがたの中に、自分はこの世で知恵のある者だと思ふ者がいたら、知恵のある者となるために愚かになりなさい。
- 19 なぜなら、この世の知恵は神の御前では愚かだからです。「神は知恵のある者を、彼ら自身の悪巧みによって捕らえる」と書かれており、
- 20 また、「主は、知恵のある者の思い計ることがいかに空しいかを、知っておられる」とも書かれています。
- 21 ですから、だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです。
- 22 パウロであれ、アポロであれ、ケファであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてはあなたがたのもの、
- 23 あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものです。

第4章

- 1 人は私たちがキリストのしもべ、神の奥義の管理者と考えるべきです。
- 2 その場合、管理者に要求されることは、忠実だと認められることです。
- 3 しかし私にとって、あなたがたにさばかれたり、あるいは人間の法廷でさばかれたりすることは、非常に小さなことです。それどころか、私は自分で自分をさばくことさえしません。
- 4 私には、やましいことは少しもありませんが、だからといって、それで義と認められているわけではありません。私をさばく方は主です。
- 5 ですから、主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごともしっかりと明らかにされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです。
- 6 兄弟たち。私はあなたがたのために、私自身とアポロに当てはめて、以上のことを述べてきました。それは、私たちの例から、「書かれていることを越えない」ことをあなたがたが学ぶため、そして、一方にくみし、他方に反対して思い上がることをないようにするためです。
- 7 いったいだれが、あなたをほかの人よりもすぐれていると認めるのですか。あなたには、何か、人からもらわなかったものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。
- 8 あなたがたは、もう満ち足りています。すでに豊かになっています。私たち抜きで王様になっています。いっそのこと、本当に王様になっていたらよかったのです。そうすれば、私たちもあなたがたとともに、王様になれたでしょうに。
- 9 私はこう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、最後の出場者として引き出されました。こうして私たちは、世界に対し、御使いたちにも人々にも見せ物になりました。

- 10 私たちはキリストのために愚かな者ですが、あなたがたはキリストにあって賢い者です。私たちは弱いのですが、あなたがたは強いのです。あなたがたは尊ばれていますが、私たちは卑しめられています。
- 11 今この時に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、ひどい扱いを受け、住む所もなく、
- 12 労苦して自分の手で働いています。ののしられては祝福し、迫害されては耐え忍び、
- 13 中傷されては、優しいことばをかけています。私たちはこの世の屑、あらゆるものの、かすになりました。今もそうです。
- 14 私がこれらのことを書くのは、あなたがたに恥ずかしい思いをさせるためではなく、私の愛する子どもとして諭すためです。
- 15 たとえあなたがたにキリストにある養育係が一万人もいる、父親が大勢いるわけではありません。この私が、福音により、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。
- 16 ですから、あなたがたに勧めます。私に倣う者となってください。
- 17 そのために、私はあなたがたのところにテモテを送りました。テモテは、私が愛する、主にあって忠実な子です。彼は、あらゆるところのあらゆる教会で私が教えているとおりに、キリスト・イエスにある私の生き方を、あなたがたに思い起こさせてくれるでしょう。
- 18 あなたがたのところに私が行くことはないだろうと考えて、思い上がっている人たちがいます。
- 19 しかし、主のみこころであれば、すぐにでもあなたがたのところに行きます。そして、思い上がっている人たちの、ことばではなく力を見せてもらいましょう。
- 20 神の国は、ことばではなく力にあるのです。
- 21 あなたがたはどちらを望みますか。私があなたがたのところに、むちを持って行くことですか。それとも、愛をもって柔和な心で行くことですか。

第5章

- 1 現に聞くところによれば、あなたがたの間には淫らな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどの淫らな行いで、父の妻を妻にしている者がいるとのこと。
- 2 それなのに、あなたがたは思い上がっています。むしろ、悲しんで、そのような行いをしている者を、自分たちの中から取り除くべきではなかったのですか。
- 3 私は、からだは離れていても霊においてはそこにいて、実際にそこにいる者のように、そのような行いをした者をすでにさばきました。
- 4 すなわち、あなたがたと、私の霊が、私たちの主イエスの名によって、しかも私たちの主イエスの御力とともに集まり、
- 5 そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それによって彼の霊が主の日に救われるためです。
- 6 あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。
- 7 新しいこねた粉のままでいられるように、古いパン種をすっかり取り除きなさい。あなたがたは種なしパンなのですから。私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。

- 8 ですから、古いパン種を用いたり、悪意と邪悪のパン種を用いたりしないで、誠実と真実の種なしパンで祭りをしようではありませんか。
- 9 私は前の手紙で、淫らな行いをする者たちと付き合わないようにと書きました。
- 10 それは、この世の淫らな者、貪欲な者、奪い取る者、偶像を拝む者と、いっさい付き合わないようという意味ではありません。そうだとしたら、この世から出て行かなければならないでしょう。
- 11 私が今書いたのは、兄弟と呼ばれる者で、淫らな者、貪欲な者、偶像を拝む者、人をそしる者、酒におぼれる者、奪い取る者がいたなら、そのような者とは付き合っはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。
- 12 外部の人たちをさばくことは、私がすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。
- 13 外部の人たちは神がおさばきになります。「あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。」

第6章

- 1 あなたがたのうちには、仲間と争いを起こしたら、それを聖徒たちに訴えずに、あえて、正しくない人たちに訴える人がいるのですか。
- 2 聖徒たちが世界をさばくようになることを、あなたがたは知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。
- 3 あなたがたは知らないのですか。私たちが御使いたちをさばくようになります。それなら、日常の事柄は言うまでもないではありませんか。
- 4 それなのに、日常の事柄で争いが起こると、教会の中で軽んじられている人たちを裁判官に選ぶのですか。
- 5 私は、あなたがたを恥じ入らせるために、こう言っているのです。あなたがたの中には、兄弟の間を仲裁することができる賢い人が、一人もいないのですか。
- 6 それで兄弟が兄弟を告訴し、しかも、それを信者でない人たちの前でするのですか。
- 7 そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。どうして、むしろ不正な行いを甘んじて受けないのですか。どうして、むしろ、だまし取られるままでいないのですか。
- 8 それどころか、あなたがた自身が不正を行い、だまし取っています。しかも、そのようなことを兄弟たちに対してしています。
- 9 あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、
- 10 盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。
- 11 あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。

- 12 「すべてのことが私には許されている」と言いますが、すべてが益になるわけではありません。「すべてのことが私には許されている」と言いますが、私はどんなことにも支配されはしません。
- 13 「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある」と言いますが、神は、そのどちらも滅ぼされます。からだは淫らな行いのためではなく、主のためにあり、主はからだのためにおられるのです。
- 14 神は主をよみがえらせたが、その御力によって私たちも、よみがえらせてくださいます。
- 15 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだはキリストのからだの一部なのです。それなのに、キリストのからだの一部を取って、遊女のからだの一部とするのですか。そんなことがあってはなりません。
- 16 それとも、あなたがたは知らないのですか。遊女と交わる者は、彼女と一つのからだになります。「ふたりは一体となる」と言われているからです。
- 17 しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になるのです。
- 18 淫らな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のもので。しかし、淫らなことを行う者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。
- 19 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。
- 20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

第7章

- 1 さて、「男が女に触れないのは良いことだ」と、あなたがたが書いてきたことについてですが、
- 2 淫らな行いを避けるため、男はそれぞれ自分の妻を持ち、女もそれぞれ自分の夫を持ちなさい。
- 3 夫は自分の妻に対して義務を果たし、同じように妻も自分の夫に対して義務を果たしなさい。
- 4 妻は自分のからだについて権利を持ってはおらず、それは夫のもので。同じように、夫も自分のからだについて権利を持ってはおらず、それは妻のもので。
- 5 互いに相手を拒んではいけません。ただし、祈りに専心するために合意の上でしばらく離れていて、再び一緒になるというのならかまいません。これは、あなたがたの自制力の無さに乗じて、サタンがあなたがたを誘惑しないようにするためです。
- 6 以上は譲歩として言っているのもあって、命令ではありません。
- 7 私が願うのは、すべての人が私のように独身であることです。しかし、一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります。
- 8 結婚していない人とやもめに言います。私のようにしていただけるなら、それが良いのです。
- 9 しかし、自制することができないなら、結婚しなさい。欲情に燃えるより、結婚するほうがよいからです。
- 10 すでに結婚した人たちに命じます。命じるのは私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。

- 11 もし別れたのなら、再婚せずにいるか、夫と和解するか、どちらかにしなさい。また、夫は妻と離婚してはいけません。
- 12 そのほかの人々に言います。これを言うのは主ではなく私です。信者である夫に信者でない妻がいて、その妻と一緒にいることを承知している場合は、離婚してはいけません。
- 13 また、女の人に信者でない夫がいて、その夫と一緒にいることを承知している場合は、離婚してはいけません。
- 14 なぜなら、信者でない夫は妻によって聖なるものとされており、また、信者でない妻も信者である夫によって聖なるものとされているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なるものです。
- 15 しかし、信者でないほうの者が離れて行くなら、離れて行かせなさい。そのような場合には、信者である夫あるいは妻は、縛られることはありません。神は、平和を得させようとして、あなたがたを召されたのです。
- 16 妻よ。あなたが夫を救えるかどうか、どうして分かりますか。また、夫よ。あなたが妻を救えるかどうか、どうして分かりますか。
- 17 ただ、それぞれ主からいただいた分に応じて、また、それぞれ神から召されたときのままの状態です。私はすべての教会に、そのように命じています。
- 18 召されたとき割礼を受けていたのなら、その跡をなくそうしてはいけません。また、召されたとき割礼を受けていなかったのなら、割礼を受けてはいけません。
- 19 割礼は取るに足りないこと、無割礼も取るに足りないことです。重要なのは神の命令を守ることです。
- 20 それぞれ自分が召されたときの状態にとどまっていなさい。
- 21 あなたが奴隷の状態で召されたのなら、そのことを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、その機会を用いたらよいでしょう。
- 22 主にあって召された奴隷は、主に属する自由人であり、同じように自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです。
- 23 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。人間の奴隷となってはいけません。
- 24 兄弟たち、それぞれ召されたときのままの状態です。神の御前にいなさい。
- 25 未婚の人たちについて、私は主の命令を受けてはいませんが、主のあわれみにより信頼を得ている者として、意見を述べます。
- 26 差し迫っている危機のゆえに、男はそのままの状態にとどまるのがよい、と私は思います。
- 27 あなたが妻と結ばれているなら、解こうしてはいけません。妻と結ばれていないなら、妻を得ようとしてはいけません。
- 28 しかし、たとえあなたが結婚しても、罪を犯すわけではありません。たとえ未婚の女が結婚しても、罪を犯すわけではありません。ただ、結婚する人たちは、身に苦難を招くでしょう。私はあなたがたを、そのような目にあわせたくないのです。
- 29 兄弟たち、私は次のことを言いたいのです。時は短くなっています。今からは、妻のいる人は妻のいない人のようにしていなさい。
- 30 泣いている人は泣いていないかのように、喜んでいる人は喜んでいないかのように、買う人は所有していないかのようにしていなさい。
- 31 世と関わる人は関わりすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。

- 32 あなたがたが思い煩わないように、と私は願います。独身の男は、どうすれば主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。
- 33 しかし、結婚した男は、どうすれば妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、
- 34 心が分かれるのです。独身の女や未婚の女は、身も心も聖なるものになろうとして、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうすれば夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。
- 35 私がこう言うのは、あなたがた自身の益のためです。あなたがたを束縛しようとしているのではありません。むしろ、あなたがたが品位ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるようになるためです。
- 36 ある人が、自分の婚約者に対して品位を欠いたふるまいをしていると思ったら、また、その婚約者が婚期を過ぎようとしていて、結婚すべきだと思うなら、望んでいるとおりにしなさい。罪を犯すわけではありません。二人は結婚しなさい。
- 37 しかし、心のうちに固く決意し、強いられてではなく、自分の思いを制して、婚約者をそのままにしておこうと自分の心で決意するなら、それは立派なふるまいです。
- 38 ですから、婚約者と結婚する人は良いことをしており、結婚しない人はもっと良いことをしているのです。
- 39 妻は、夫が活着ている間は夫に縛られています。しかし、夫が死んだら、自分が願う人と結婚する自由があります。ただし、主にある結婚に限ります。
- 40 しかし、そのままにいられるなら、そのほうがもっと幸いです。これは私の意見ですが、私も神の御霊をいただいていると思います。

第8章

- 1 次に、偶像に献げた肉についてですが、「私たちはみな知識を持っている」ということは分かっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てます。
- 2 自分は何かを知っていると思う人がいたら、その人は、知るべきほどのことをまだ知らないのです。
- 3 しかし、だれかが神を愛するなら、その人は神に知られています。
- 4 さて、偶像に献げた肉を食べることについてですが、「世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない」ことを私たちは知っています。
- 5 というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、
- 6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。
- 7 しかし、すべての人にこの知識があるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんできたため、偶像に献げられた肉として食べて、その弱い良心が汚されてしまいます。
- 8 しかし、私たちを神の御前に立たせるのは食物ではありません。食べなくても損にならないし、食べても得になりません。
- 9 ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように気をつけなさい。
- 10 知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、その人はそれに後押しされて、その良心は弱いのに、偶像の神に献げた肉を食べようにならないでしょうか。

- 11 つまり、その弱い人は、あなたの知識によって滅びることになります。この兄弟のためにも、キリストは死んでくださったのです。
- 12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。
- 13 ですから、食物が私の兄弟をつまずかせるのなら、兄弟をつまずかせないために、私は今後、決して肉を食べません。

第9章

- 1 私には自由がないのですか。私は使徒ではないのですか。私は私たちの主イエスを見なかったのですか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。
- 2 たとえ私がほかの人々に対しては使徒でなくても、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、私が主にあって使徒であることの証印です。
- 3 私をさばく人たちに対して、私は次のように弁明します。
- 4 私たちには食べたり飲んだりする権利がないのですか。
- 5 私たちには、ほかの使徒たち、主の兄弟たちや、ケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。
- 6 あるいは、私とバルナバだけには、生活のために働かなくてもよいという権利がないのですか。
- 7 はたして、自分の費用で兵役に服す人がいるでしょうか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない人がいるでしょうか。羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない人がいるでしょうか。
- 8 私がこのようなことを言うのは、人間の考えによるのでしょうか。律法も同じことを言っていないでしょうか。
- 9 モーセの律法には「脱穀をしている牛に口籠をはめてはならない」と書いてあります。はたして神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。
- 10 私たちのために言うておられるのではありませんか。そうです。私たちのために書かれています。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは、当然だからです。
- 11 私たちがあなたがたに御霊のものを蒔いたのなら、あなたがたから物質的なものを刈り取るとは、行き過ぎでしょうか。
- 12 ほかに人々があなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私たちは、なおさらそうではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。むしろ、キリストの福音に対し何の妨げにもならないように、すべてのことを耐え忍んでいます。
- 13 あなたがたは、宮に奉仕している者が宮から下がる物を食べ、祭壇に仕える者が祭壇のささげ物にあずかることを知らないのですか。
- 14 同じように主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活の支えを得るように定めておられます。
- 15 しかし、私はこれらの権利を一つも用いませんでした。また、私は権利を用いたくて、このように書いているのでもありません。それを用いるよりは死んだほうがましです。私の誇りを空しいものにするのは、だれにもできません。

- 16 私が福音を宣べ伝えても、私の誇りにはなりません。そうせずにはいられないのです。福音を宣べ伝えないなら、私はわざわざいす。
- 17 私が自発的にそれをしているなら、報いがあります。自発的にするのでないとしても、それは私に務めとして委ねられているのです。
- 18 では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに無報酬で福音を提供し、福音宣教によって得る自分の権利を用いない、ということです。
- 19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。
- 20 ユダヤ人にはユダヤ人のようにになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには—私自身は律法の下にはいませんが—律法の下にある者のようにになりました。律法の下にある人たちを獲得するためです。
- 21 律法を持たない人たちには—私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが—律法を持たない者のようにになりました。律法を持たない人たちを獲得するためです。
- 22 弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。
- 23 私は福音のためにあらゆることをしています。私も福音の恵みをもとに受ける者となるためです。
- 24 競技場で走る人たちはみな走っても、賞を受けるのは一人だけだということを、あなたがたは知らないのですか。ですから、あなたがたも賞を得られるように走りなさい。
- 25 競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。
- 26 ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。
- 27 むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。

第10章

- 1 兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません。私たちの先祖はみな雲の下にいて、みな海を通過して行きました。
- 2 そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け、
- 3 みな、同じ霊的な食べ物を食べ、
- 4 みな、同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。その岩とはキリストです。
- 5 しかし、彼らの大部分は神のみこころにかなわず、荒野で滅ぼされました。
- 6 これらのことは、私たちを戒める実例として起こったのです。彼らが貪ったように、私たちが悪を貪ることのないようにするためです。
- 7 あなたがたは、彼らのうちのある人たちのように、偶像礼拝者になってはいけません。聖書には「民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた」と書いてあります。

- 8 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、淫らなことを行うことのないようにしましょう。彼らはそれをして一日に二万三千人が倒れて死にました。
- 9 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、キリストを試みることのないようにしましょう。彼らは蛇によって滅んでいきました。
- 10 また、彼らのうちのある人たちがしたように、不平を言ってはいけません。彼らは滅ぼす者によって滅ぼされました。
- 11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。
- 12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。
- 13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。
- 14 ですから、私の愛する者たちよ、偶像礼拝を避けなさい。
- 15 私は賢い人たちに話すように話します。私の言うことを判断してください。
- 16 私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。
- 17 パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。
- 18 肉によるイスラエルのことを考えてみなさい。ささげ物を食する者は、祭壇の交わりにあずかることになるのではありませんか。
- 19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像に献げた肉に何か意味があるとか、偶像に何か意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。
- 20 むしろ、彼らが献げる物は、神にではなくて悪霊に献げられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。
- 21 あなたがたは、主の杯を飲みながら、悪霊の杯を飲むことはできません。主の食卓にあずかりながら、悪霊の食卓にあずかることはできません。
- 22 それとも、私たちは主のねたみを引き起こすつもりなのですか。私たちは主よりも強い者なのですか。
- 23 「すべてのことが許されている」と言いますが、すべてのことが益になるわけではありません。「すべてのことが許されている」と言いますが、すべてのことが人を育てるとはかぎりません。
- 24 だれでも、自分の利益を求めず、ほかの人の利益を求めなさい。
- 25 市場で売っている肉はどれでも、良心の問題を問うことをせずに食べなさい。
- 26 地とそこに満ちているものは、主のものだからです。
- 27 あなたがたが、信仰のないだれかに招待されて、そこに行きたいと思うときには、自分の前に出される物はどれでも、良心の問題を問うことをせずに食べなさい。
- 28 しかし、だれかがあなたがたに「これは偶像に献げた肉です」と言うなら、そう知らせてくれた人のため、また良心のために、食べてはいけません。
- 29 良心と言っているのは、あなた自身の良心ではなく、知らせてくれた人の良心です。私の自由が、どうしてほかの人の良心によってさばかれるのでしょうか。

- 30 もし私が感謝して食べるなら、どうして私が感謝する物のために悪く言われるのでしょうか。
- 31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。
- 32 ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、つまずきを与えない者になりなさい。
- 33 私も、人々が救われるために、自分の利益ではなく多くの人々の利益を求め、すべてのことですべての人を喜ばせようと努めているのです。

第11章

- 1 私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。
- 2 さて、私はあなたがたをほめたいと思います。あなたがたは、すべての点で私を覚え、私があるあなたがたに伝えたとおりに、伝えられた教えを堅く守っているからです。
- 3 しかし、あなたがたに次のことを知ってほしいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。
- 4 男はだれでも祈りや預言をするとき、頭をおおっていたら、自分の頭を辱めることになりません。
- 5 しかし、女はだれでも祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭を辱めることになります。それは頭を剃っているのと全く同じことなのです。
- 6 女は、かぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまうなさい。髪を切り、頭を剃ることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。
- 7 男は神のかたちであり、神の栄光の現れなので、頭にかぶり物を着けるべきではありません。一方、女は男の栄光の現れです。
- 8 男が女から出たのではなく、女が男から出たからです。
- 9 また、男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたからです。
- 10 それゆえ、女は御使いたちのため、頭に權威のしるしをかぶるべきです。
- 11 とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。
- 12 女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から出ています。
- 13 あなたがたは自分自身で判断しなさい。女が何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。
- 14 自然そのものが、あなたがたにこう教えていないのでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは彼にとって恥ずかしいことであり、
- 15 女が長い髪をしていたら、それは彼女にとっては榮譽なのです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。
- 16 たとえ、だれかがこのことに異議を唱えたくても、そのような習慣は私たちにはなく、神の諸教会にもありません。
- 17 ところで、次のことを命じるにあたって、私はあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが益にならず、かえって害になっているからです。

- 18 まず第一に、あなたがたが教会に集まる際、あなたがたの間に分裂があると聞いています。ある程度は、そういうこともあるかと思えます。
- 19 実際、あなたがたの間で本当の信者が明らかにされるためには、分派が生じるのもやむを得ません。
- 20 しかし、そういうわけで、あなたがたと一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにはなりません。
- 21 というのも、食事のとき、それぞれが我先にと自分の食事をするので、空腹な者もいれば、酔っている者もいるという始末だからです。
- 22 あなたがたには、食べたり飲んだりする家がないのですか。それとも、神の教会を軽んじて、貧しい人たちに恥ずかしい思いをさせたいのですか。私はあなたがたにどう言うべきでしょうか。ほめるべきでしょうか。このことでは、ほめるわけにはいきません。
- 23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、
- 24 感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」
- 25 食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」
- 26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告知らせるのです。
- 27 したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。
- 28 だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。
- 29 みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです。
- 30 あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。
- 31 しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。
- 32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。
- 33 ですから、兄弟たち。食事に集まる時は、互いに待ち合わせなさい。
- 34 空腹な人は家で食べなさい。あなたがたが集まることによって、さばきを受けないようにするためです。このほかのことについては、私が行ったときに決めることにします。

第12章

- 1 さて、兄弟たち。御霊の賜物については、私はあなたがたに知らずにいてほしくありません。
- 2 ご存じのとおり、あなたがたが異教徒であったときには、誘われるまま、ものを言えない偶像のところへ引かれて行きました。
- 3 ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

- 4 さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。
- 5 奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。
- 6 働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。
- 7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。
- 8 ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。
- 9 ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、
- 10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。
- 11 同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。
- 12 ちょうど、からだ一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。
- 13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。
- 14 実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。
- 15 たとえ足が「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。
- 16 たとえ耳が「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、それで、からだに属さなくなるわけではありません。
- 17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら、どこでにおいを嗅ぐのでしょうか。
- 18 しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。
- 19 もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。
- 20 しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。
- 21 目が手に向かって「あなたは知らない」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたがたは知らない」と言うこともできません。
- 22 それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。
- 23 また私たちは、からだの中で見栄えがほかより劣っていると思う部分を、見栄えをよくするものでおおいます。こうして、見苦しい部分はもっと良い格好になりますが、
- 24 格好の良い部分はその必要がありません。神は、劣ったところには、見栄えをよくするものを与えて、からだを組み合わせられました。
- 25 それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです。
- 26 一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。
- 27 あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。
- 28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

- 29 皆が使徒でしょうか。皆が預言者でしょうか。皆が教師でしょうか。すべてが力あるわざでしょうか。
- 30 皆が癒やしの賜物を持っているでしょうか。皆が異言を語るでしょうか。皆がその解き明かしをするでしょうか。
- 31 あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。私は今、はるかにまさる道を示しましょう。

第13章

- 1 たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどらや、うるさいシンバルと同じです。
- 2 たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。
- 3 たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。
- 4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。
- 5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、
- 6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。
- 7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。
- 8 愛は決して絶えることはありません。預言ならすたれます。異言ならやみませぬ。知識ならすたれます。
- 9 私たちが知るのとは一部分、預言するのとも一部分であり、
- 10 完全なものが現れたら、部分的なものはすたれるのです。
- 11 私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。
- 12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになりませぬ。今、私は一部分しか知りませぬが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。
- 13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

第14章

- 1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。
- 2 異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませぬが、御霊によって奥義を語るのです。
- 3 しかし預言する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。
- 4 異言で語る人は自らを成長させませぬが、預言する人は教会を成長させませぬ。
- 5 私は、あなたがたがみな異言で語ることを願いますが、それ以上に願うのは、あなたがたが預言することです。異言で語る人がその解き明かしをして教会の成長に役立つのでないかぎり、預言する人のほうがまさっています。

- 6 ですから、兄弟たち。私があなたがたのところに行って異言で語るとしても、啓示か知識か預言か教えによって語るのであれば、あなたがたに何の益になるでしょう。
- 7 笛や豎琴など、いのちのない楽器でも、変化のある音を出さなければ、何を吹いているのか、何を弾いているのか、どうして分かるでしょうか。
- 8 また、ラッパがはっきりしない音を出したら、だれが戦いの準備をするでしょう。
- 9 同じようにあなたがたも、舌で明瞭なことばを語らなければ、話していることをどうして分かってもらえるでしょうか。空気に向かって話していることになります。
- 10 世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません。
- 11 それで、もし私がおのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。
- 12 同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。
- 13 そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。
- 14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。
- 15 それでは、どうすればよいのでしょうか。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。
- 16 そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。
- 17 あなたが感謝するのはけっこうですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。
- 18 私は、あなたがたのだれよりも多くの異言で語っていることを、神に感謝しています。
- 19 しかし教会では、異言で一万のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいと思います。
- 20 兄弟たち、考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい。
- 21 律法にこう書かれています。「『わたしは、異国の舌で、異なる唇でこの民に語る。それでも彼らは、わたしの言うことを聞こうとはしない』と主は言われる。」
- 22 それで異言は、信じている者たちのためではなく、信じていない者たちのためのしるしであり、預言は、信じていない者たちのためではなく、信じている者たちのためのしるしです。
- 23 ですから、教会全体が一緒に集まって、皆が異言で語るなら、初心の人が信じていない人が入って来たとき、あなたがたは気が変になっていると言われることにならないでしょうか。
- 24 しかし、皆が預言をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、
- 25 心の秘密があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。
- 26 それでは、兄弟たち、どうすればよいのでしょうか。あなたがたが集まる時には、それぞれが賛美したり、教えたり、啓示を告げたり、異言を話したり、解き明かしたりすることができません。そのすべてのことを、成長に役立つためにしなさい。

- 27 だれかが異言で語るのであれば、二人か、多くても三人で順番に行い、一人が解き明かしをしなさい。
- 28 解き明かす者がいなければ、教会では黙っていて、自分に対し、また神に対して語りなさい。
- 29 預言する者たちも、二人か三人が語り、ほかの者たちはそれを吟味しなさい。
- 30 席に着いている別の人に啓示が与えられたら、先に語っていた人は黙りなさい。
- 31 だれでも学び、だれでも励ましを受けられるように、だれでも一人ずつ預言することができるのです。
- 32 預言する者たちの霊は預言する者たちに従います。
- 33 神は混乱の神ではなく、平和の神なのです。聖徒たちのすべての教会で行われているように、
- 34 女の人には教会では黙っていなさい。彼女たちは語ることを許されていません。律法も言うように、従いなさい。
- 35 もし何かを知りたいければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、女の人にとって恥ずかしいことなのです。
- 36 神のことは、あなたがたのところから出たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか。
- 37 だれかが自分を預言者、あるいは御霊の人と思っているなら、その人は、私あなたがたに書くことが主の命令であることを認めなさい。
- 38 それを無視する人がいるなら、その人は無視されます。
- 39 ですから、私の兄弟たち、預言することを熱心に求めなさい。また、異言で語ることを禁じてはいけません。
- 40 ただ、すべてのことを適切に、秩序正しく行いなさい。

第15章

- 1 兄弟たち。私あなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。
- 2 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。
- 3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
- 4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、
- 5 また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。
- 6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。
- 7 その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。
- 8 そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。
- 9 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

- 10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。
- 11 とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。
- 12 ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。
- 13 もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。
- 14 そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。
- 15 私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかつたはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。
- 16 もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。
- 17 そして、もしキリストがよみがえらなかつたとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。
- 18 そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったこととなります。
- 19 もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。
- 20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。
- 21 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。
- 22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。
- 23 しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。
- 24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。
- 25 すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。
- 26 最後の敵として滅ぼされるのは、死です。
- 27 「神は万物をその方の足の下に従わせた」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。
- 28 そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。
- 29 そうでなかったら、死者のためにバプテスマを受ける人たちは、何をしようとしているのですか。死者が決してよみがえらないのなら、その人たちは、なぜ死者のためにバプテスマを受けるのですか。
- 30 なぜ私たちも、絶えず危険にさらされているのでしょうか。
- 31 兄弟たち。私たちの主キリスト・イエスにあって私が抱いている、あなたがたについての誇りにかけて言いますが、私は日々死んでいるのです。

- 32 もし私が人間の考えからエペソで獣と戦ったのなら、何の得があったでしょう。もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。
- 33 惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。
- 34 目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。神について無知な人たちがいます。私はあなたがたを恥じ入らせるために言っているのです。
- 35 しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」と言う人がいるでしょう。
- 36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。
- 37 また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、ただの種粒です。
- 38 しかし神は、みこころのままに、それにからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えになります。
- 39 どんな肉も同じではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉、それぞれ違います。
- 40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの輝きと地上のからだの輝きは異なり、
- 41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝き、それぞれ違います。星と星の間でも輝きが違います。
- 42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、
- 43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、
- 44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。
- 45 こう書かれています。「最初の人アダムは生きるものとなった。」しかし、最後のアダムはいのちを与える御霊となりました。
- 46 最初にあったのは、御霊のものではなく血肉のものです。御霊のものは後に来るのです。
- 47 第一の人は地から出て、土で造られた人ですが、第二の人は天から出た方です。
- 48 土で造られた者たちはみな、この土で造られた人に似ており、天に属する者たちはみな、この天に属する方に似ています。
- 49 私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです。
- 50 兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。
- 51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。
- 52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。
- 53 この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。
- 54 そして、この朽ちるべきものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に呑み込まれた。」

- 55 「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」
- 56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。
- 57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。
- 58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。

第16章

- 1 さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたとおりに、あなたがたも行いなさい。
- 2 私がそちらに行ってから献金を集めることがないように、あなたがたはそれぞれ、いつも週の初めの日に、収入に応じて、いくらかでも手もとに蓄えておきなさい。
- 3 私がそちらに着いたら、あなたがたの承認を得た人たちに手紙を持たせてエルサレムに派遣し、あなたがたの贈り物を届けさせましょう。
- 4 もし私も行くほうがよければ、その人たちは私と一緒にいくことになるでしょう。
- 5 私はマケドニアを通過して、あなたがたのところへ行きます。マケドニアはただ通過し、
- 6 おそらく、あなたがたのところに滞在するでしょう。冬を越すことになるかもしれません。どこに向かうにしても、あなたがたに送り出してもらうためです。
- 7 私は今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくありません。主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばらく滞在したいと願っています。
- 8 しかし、五旬節まではエペソに滞在します。
- 9 実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれています。反対者も大勢いるからです。
- 10 テモテがそちらに行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようにしてあげてください。彼も私と同じように、主のみわざに励んでいるのです。
- 11 だれも彼を軽んじてはいけません。彼を平安のうちに送り出して、私のところに來させてください。私は、彼が兄弟たちと一緒に戻るのを待っています。
- 12 兄弟アポロのことですが、兄弟たちと一緒にあなたがたのところに行くように、私は強く勧めました。けれども、彼は今のところ行く意志は全くありません。しかし、良い機会があれば行くでしょう。
- 13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。雄々しく、強くありなさい。
- 14 一切のことを、愛をもって行いなさい。
- 15 兄弟たちよ、あなたがたに勧めます。ご存じのとおり、ステファナの一家はアカイアの初穂であり、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。
- 16 あなたがたも、このような人たちに、また、ともに働き、労苦しているすべての人たちに従いなさい。
- 17 ステファナとポルトナトとアカイコが来たので、私は喜んでいます。あなたがたがいない分を、彼らが埋めてくれたからです。
- 18 彼らは、私の心とあなたがたの心を安らがせてくれました。このような人たちを尊びなさい。

- 19 アジアの諸教会がよろしくと言っています。アキラとプリスカ、また彼らの家にある教会が、主にあって心から、あなたがたによろしくと言っています。
- 20 すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。聖なる口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。
- 21 私パウロが、自分の手であいさつを記します。
- 22 主を愛さない者はみな、のろわれよ。主よ、来てください。
- 23 主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。
- 24 私の愛が、キリスト・イエスにあって、あなたがたすべてとともにありますように。